

# 全国保健師長会千葉県支部だより



令和5年度 第2号 令和5年12月21日発行

## 1 千葉県支部長あいさつ

2023年も残すところわずかとなりました。コロナ禍を経て今年は多くの会員の皆様、他県や千葉市の保健師さんと交流ができて大変うれしく思っております。今年1年を振り返ってみてどんな年だったでしょうか。わたくしごとで恐縮ですが、近年「自分だけ今年の漢字一字」を考えて、お正月に書初めにしてみたりしています。ちなみに2023年「今年の漢字」第1位は『**税**』でした。私は、『**君**』を候補に挙げています。(意味は、いつかお話すの機会がありましたら……😊) 皆さんはいかがですか？ 行政保健師にとって激動の時を迎えておりますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(千葉県支部長 田中由佳)

## 2 令和5年度 全国保健師長会研修会概要

- (1) 開催日時：令和5年11月17日(金) 午前10時～午後4時30分
- (2) 会場：ホテル国際21(長野県長野市)
- (3) 研修テーマ：「これからの地域保健活動におけるコミュニティとの協働・共創」



### 【講演Ⅰ「地域における保健活動の推進に向けて」】

講師：厚生労働省健康局健康課保健指導室長 五十嵐 久美子 氏

日本の生産年齢人口の推計は2025年から2040年で16.6%減少し、単身世帯の増加に伴い人とのつながりが一層重要になること、5年、10年後を見据えて、今降りてきている事業にどのように取り組むか、若い保健師を巻き込んで戦略を考える必要があるとのことでした。健康危機管理体制の確保として、平時に作った体制を有事に使うというお話があり、平時の活動の積み重ねが重要であることを再確認しました。

### 【講演Ⅱ「2040年問題に向けた公衆衛生の展望」】

講師：東北大学名誉教授 同大学院医学系研究科 公衆衛生学分野 客員教授 辻 一郎 氏

第2次ベビーブームに生まれた団塊ジュニア世代が全員65歳以上になる2040年の公衆衛生の課題は、社会的孤立・孤独への対策、低所得者への生活習慣病対策で、孤立化の予防や生きがいづくりが健康寿命の延伸につながるとのことでした。今後、人員不足が予測される中、役所の健康づくり部局だけの事業展開は困難となるため、全庁的な取り組みや地域の住民組織やボランティア、企業との連携・協働が健康づくりのキーワードとなることで、より一層他機関と連携・協働する仕組み作りが必要になると感じたお話でした。

### 【講演Ⅲ「コミュニティとの価値共創を目指すこれからの地域保健活動」】

講師：長野県立大学大学院 健康栄養科学研究科 准教授 今村 晴彦 氏

熊本市の健康まちづくり事業を例にあげ、保健サービスを地域に実装する(根付かせる)プロセスについてお話いただきました。実装に影響を与える障害・促進要因を体系的に整理したフレームワーク(CFIR:シーファー)があることで、日常の活動をこのフレームワークに落とし込んで業務を振り返ることができるのでは、と思いました。

### 【実践報告1】「歴史ある地域活動のバトンをつなぐ試み～健康づくり推進員の事例～」

報告者：東御市健康福祉部 健康推進課 健康増進係長 永島 美典 氏

東御市では40年間で6000人(人口の20%)が健康づくり推進員の経験があり、「たとえ1年でも学んだ経験を持つ人が地域に増えることは地域の土壌づくりになる」という言葉が印象的でした。

### 【実践報告2】「地域特性を考慮したデータに基づく健康づくり事業の展開」

報告者：東京都 大田区保健所 健康づくり課 健康づくり担当保健師 田中 育代 氏

「人生100年を見据えた健康寿命延伸プロジェクト」の取り組みについて報告がありました。庁内横断的なプロジェクトチームを結成し、地区のデータを根拠とした企画書を作成しました。若い世代をターゲットとするため、子ども(小学校)への介入を切り口に生活習慣病予防等の啓発活動を展開しました。地域のキャラクターを地域特産の海苔のパッケージやシールにするなど、工夫を重ねている様子が見え、参考になりました。

### 【実践報告3】「地域包括ケア推進に向けた市町村への伴走型支援の取り組みについて」

報告者：長野県健康福祉部 介護支援課 主任保健師 小澤 文乃 氏

実装科学の考えを取り入れた市町村支援として、講演Ⅲの今村先生から説明のあった「CFIR」の項目に沿って市町村にインタビューを行い、障害・促進要因を特定しました。また、事業のプロセスを振り返るための評価指標を市町村とともに作成し、自ら事業の振り返りができるようにしているとのことでした。



### 3 第45回全国保健師長会代議員総会概要

- (1) 開催日時：令和5年11月18日（日）午前9時20分～午後3時10分
- (2) 会場：ホテル国際21（長野県長野市）
- (3) テーマ：「DXで保健師活動はどう変わる？ ～今保健師が取り組むべきこと～」

長野県知事代理の同県健康福祉部長をはじめ、多くの来賓挨拶では新型コロナウイルス感染症への対応に関する感謝と今後の活動への期待の言葉をいただきました。総会の議題（第1号議案から8号議案まで）いずれも反対0（提出数219 無効2 有効票217）で可決されました。

#### 【基調講演「DXで保健師活動はどう変わる？～今、保健師が取り組むべきこと」】

講師：慶応義塾大学看護医療学部 教授 田口 敦子 氏 助教 赤塚 永貴 氏

DX（デジタル・トランスフォーメーション）の一例で、子ども家庭庁では従来のプル型（申請・窓口主義）からプッシュ型（DX・伴走型サービスを先回りして適切にプッシュでアプローチ）へのサービス転換が示されました。家庭訪問記録をはじめとした各種の保健師記録のデジタル化により、個別支援、集団・地区支援・事業運営・施策化の効率化が期待され、効率化でできた時間を個別支援などに充てることができます。意味のあるデータの蓄積により、効果的な保健活動ができることと田口教授の「デジタル化の波に飲み込まれず、波に乗っていきましょう」の言葉が心強く感じました。

#### 【実践報告Ⅰ「地方自治体の保健師活動におけるICTの活用に関する調査から見えてきた課題」】

講師：全国保健師長会/大分県西部保健所 課長補佐 吉田 知可 氏

ICTの導入、DXの推進は時代の潮流として避けることができないため、統括的立場の保健師は「何のために導入するのか」「どのようなニーズが保健師のベースにあるのか」見失うことなく興味を持って臨むことができるか、自分自身が使いこなせずとも、適任な人材や専門部署との連携できるか」が調査結果から見えた課題との報告でした。

（詳細は全国保健師長会ホームページ [http://www.nacphn.jp/03/pdf/2021\\_oita.pdf?2220629](http://www.nacphn.jp/03/pdf/2021_oita.pdf?2220629) をご覧ください）



#### 【実践報告Ⅱ「島田市における保健師活動のDX化への取組」】

講師：静岡県 島田市 健康づくり課 技監 鈴木 仁枝 氏

島田市ではネウボラ推進の一環として保健師が担当家族に関われる時間を確保するため、モバイルパソコンの活用等により事業の効率化を図っているほか、子育て支援プラットフォーム「しまいく+（プラス）」を導入し、健診の申請・変更、育児相談、担当保健師とのチャット、対面相談の予約などがスマホでできるアプリの紹介がありました。効率化により、必要な方への対面での支援に時間をかけられる一方、①事務が煩雑 ②アプリ利用者が「健診の案内紙（郵送）で通知が来る」と思い未受診になったケースもあったなど、デジタル化に伴う課題も残っているとのことでした。

### 4 令和5年度全国保健師長会千葉県支部・千葉市支部合同研修会の概要

千葉市支部との合同研修で対面・オンラインのハイブリッド形式での開催でした。当日の参加者は42名（対面17名オンライン25名）でした。終始前向きな先生の言葉に勇気づけられ、リーダーの役割やチーム作りを学べた研修でした。

#### 演題：「今の自分と今いる仲間であまくいく～リーダーシップとチームワークの話～」

講師：組織開発ファシリテーター 長尾 彰 氏



- ・リーダーとして、物事を決めたり方針決定する“係”の役割を担い、必ずしもチームの先頭に立つとは限らない。
- ・チームの成長には4段階のステージ（フォーミング→ストーミング→ノーマーキング→トランスフォーミング）がある。
- ・チームにならないとできない仕事としては、「正解がわかってないもの」「前例がないもの」が挙げられ、手順が決まっているような業務は、グループ（フォーミングの段階）でもよい。
- ・生産性の高いチームに共通していることは「心理的安全性」→集団に「何を言っても大丈夫」という雰囲気が大事。

🌲🌲🌲🌲🌲🌲🌲🌲🌲🌲🌲 アンケートより 🌲🌲🌲🌲🌲🌲🌲🌲🌲🌲🌲

「対面で長尾先生のエネルギッシュなお話を聞くことができ、元気を頂きました。」「グループがチームへと成長していくタックマンモデルの考え方を始めて知りました。」「リーダーとして自分の置かれている立場について整理できました。」「マネジメントについてきちんと学んだことがないのでとても良い機会となりました。」etc… （文責 児玉）